

ときに沈黙して、一つ一つ思い出するように、引き継ぐ内容をお伝えになった。マハレの古くからのデータのこと、入力したけれどまだ論文にしていないデータのこと、そして西田さんの最後の仕事となった英語の本のこと…。最後の最後まで研究のことを考えておられたわけだ。

最後に気にかけていたのは、マハレの調査助手たちのことだった。定年を迎えて引退した古株の調査助手たちが老後に困らないようになんとか考えてくれまいか、と頼まれた。40年以上に渡るマハレでの研究へのトングウェの人たちの貢献に対して、一番感謝していたのは西田さんだったのだと改めて思った。

西田先生とントロギ

伊藤 詞子

京大学

1995年、私の初めてのマハレ調査の時に起こった、ントロギというあるオトナオスのチンパンジーの死は、先生と、先生のチンパンジーとの深い関わりと、その関係を深く理解する周囲の人々、という鮮烈な印象とともに深く心に刻まれています。先生は瀕死のントロギへの、その場に唯一いた別のオトナオスの接近に対して、躊躇なく間に入って身を挺していました。亡くなったその朝には、必要な資料の記録をとり、その時はどれほど悲しんでいるのか気づきませんでした。しかし全部済んでみると、すっかり落ち込み、もうチンパンジーを見に行く気力がなくなったと漏らしていました。かける言葉も見つかりませんでした。午前三時頃のントロギの最後の異変に気づいたのは先生の奥さんで、一晩中気にかけておられたのだと思われます。さらに、アシスタントの奥さん達が皆でキャンプに先生と奥さんにお悔やみを言いに行きました。後にも先にもこのようなことは見たことも聞いたこともありません。先生の個々のチンパンジーとの関係に対する、このような深い周囲の理解は、相手の区別なく楽しそうに次から次へとチンパンジーとの思い出を語る先生のお人柄があつてのことですが、先生の数々の業績を支えてきた大きな力でもあったと思います。時に大笑いするような先生のチンパンジー談義を、こんなに急に聞けなくなるとは思ってもみませんでした。このントロギの話にも、実は笑い話があるのですが、それはまた別の機会にしたいと思います。

心よりご冥福をお祈りいたします。

西田先生とチンパンジーのビデオ

座馬 耕一郎

(株) 林原生物化学研究所類人猿研究センター

今、マハレでこの文章を書いている。西田先生はもうここにはいないが、西田先生が築き上げてこられた調査基地や、人に慣れたチンパンジーたちは、今も息づいている。

1999年8月は、西田先生が私をマハレへ野生チンパンジー調査に連れて行ってくださった年である。またこの年は、西田先生がご自身のフィールドワークにデジタルビデオカメラを用いた最初の年でもある。以来、ビデオは西田先生の調査に欠かせないツールとなったようである。私もビデオを用いており、調査のメインテーマであった毛づくろいを中心に撮影していたが、西田先生はマハレのチンパンジーのすべてを記録しようとしているように見受けられた。先生は片時もビデオを手放さず、チンパンジーの採食、ディスプレイ、狩猟、歩行、遊びなどを撮影されていた。そしてそのビデオには、必ず西田先生のコメントが入っており、ときにはくすくす笑いをもらしながら、チンパンジーの行動を記録されていた。

西田先生がビデオを用いはじめたきっかけは、チンパンジーの地域間比較をするためであったと思われる。その後先生の興味は、チンパンジーの遊びや新奇行動に移り、ビデオ映像を効果的に用いて研究を推し進められた。こうして蓄積されたビデオ記録は、松阪崇久さんや私の映像とあわせて、チンパンジーの映像行動目録として、2004年の西田先生退官記念行事にて紹介された。これを公開してはどうかと西田先生に伺ったところ了承され、Crickette SanzさんやDavid Morganさん、大橋岳さんから他地域のチンパンジーの貴重な映像を提供いただき、2010年に“*Chimpanzee Behavior in the Wild: An Audio-Visual Encyclopedia*”として出版された。

この本についているDVDの映像の中に西田先生のくすくす笑いが聞こえてくると、西田先生がマハレのフィールドワークを楽しんでいた姿や、チンパンジーに対する愛着が思い出される。



マハレのチンパンジーを撮影する西田先生